

## 〔共済連だより〕

# 家畜診療日誌

西部家畜診療所 根木 慶彦

大学卒業後4月に岡山県農業共済組合連合会に入会し、早くも半年を迎えようとしています。農家での往診は、稟告をサッと聞いて、診断し、注射を素早く打ち、白衣を翻して華麗に去っていく…。

こんな、農家から信頼されるかっこいい獣医師を夢見てこの世界に飛び込んできました。

しかし、実際はと言いますと、最初は教科書で勉強したことと現場の違いに戸惑い、まったくの新しいことを1から学んでいっているような感覚で、緊張と失敗がいっぱいでした。

診療で最初に来た関門は静脈注射。農家と先輩獣医が見つめるプレッシャーと戦いながらいつもドキドキでした。うまく一発で成功したときは『俺って出来るヤツだ。』と自分で褒め、失敗を繰り返したときは農家さんから視線をはずしつつ『牛さん何度も痛いことしてゴメンナサイ。』と心の中でつぶやきます。

他にも失敗の連続で…。診療中に、牛に足を踏まれ、牛床で滑って転倒し、真っ白の白衣は糞尿で汚れ、牛舎を歩けば、配管で頭を打ち、牛を捕まえるのにも苦勞し、最後には聴診器や体温計、さらには白衣までも忘れていくなど……。挙げていけばきりがありません。

ああでもないこうでもないという試行錯誤の毎日、診療に同行した先輩に『何やってる…。』の一言を何度も頂きながら頑張ってきました。

初めて一人で往診に回ったときは、心臓が飛び出るほど緊張でいっぱいになり、うまく出来るか不安で目的地に早く到着したくない気持ちになったこと、初めて手術で執刀したときの緊張感、自分に思い切り刺した注射の痛みと情けなさは、この先長くなるであろう獣医師人生でずっと忘れることはないかと思えます。

こんな状態では、夢見たカッコイイ獣医師とは程遠く、先輩たちからの助言は知らないことばかり、次から次へと学ぶことは止まることなくあふれてきて、どれほどの経験を積めば先輩獣医師たちの腕に並べるのだろうかという不安と焦りを感じます。

しかし、毎日働く中で失敗、不安や焦りだけではもちろんありません。

農家を回る中でいろいろな話を聞かせてもらったり。『どこ出身なの?』、『身体細いね。』、『体力ももっとつけろ。』、『ちゃんと食べてるの?』、『牛にはこういうこともあるんだよ。』、など世間話が多いのですが、それはともかく、牛の扱い方、飼い方など素人同然の自分にとっては新鮮で勉強になることばかりです。

また注射、糞便検査で寄生虫の確認、子宮の薬液注入などの小さな成功や発見だけでもうれしいのです。

中でも最初から自分で診断し、治療方針を決めて治療した牛が、元気に回復しているのを見たときが一番の喜びで、心の中でガッツポーズです。つらいことも多いですが、喜びを積み重ねて楽しく仕事をさせてもらえてと思います。

今回、原稿の執筆をした際に半年という短い期間ではありますが4月からの自分を振り返ってみるいい機会になったと思います。

これからも、なんでも疑問に思い、調べてきた気持ち大切に、新しいことにチャレンジしていきたい、カッコイイ獣医師目指して頑張っていきたいと思います。